

## キヤノン IT ソリューションズ株式会社

キヤノン IT ソリューションズ株式会社はキヤノンマーケティングジャパングループの IT 事業の中核会社（従業員約 4,000 名）であり、製造、流通、金融などの顧客にソリューションを提供している。研究開発部門として R & D センターを持ち、その中で数理技術部は OR に関する研究開発、実践適用を推進している。本稿では R & D センター数理技術部（以下数理技術部と記述）の活動を紹介します。

数理技術部は 1960 年代に住友金属工業(株)中央技術研究所内に設立された OR 研究グループを起源とする。設立以来、鉄鋼生産などにおける設備運用の効率化、最適化計画をテーマに活動を続けてきた。その後、活動をシステム事業領域に拡大したが、2003 年親会社の株式譲渡により、キヤノンマーケティングジャパングループ（当時のキヤノン販売グループ）へ組織を移管された。約半世紀の間、OR に特化した組織を継続し、研究と実践適用を継続している部隊である。

数理技術部では OR を企業経営にかかわる諸問題に対し、数学的な視点、手法によって、課題の抽出から改善策を提案する活動と捉え、手法の研究開発ならびにコンサルティングによる顧客への適用を推進している（図 1）。その際に活用されるのがデータ分析技術、

数理最適化技術、シミュレーション技術の要素技術群である。顧客の課題に対し、事実、実データに基づき、現状課題を整理し、問題の本質を見極め、適切な解決策を提示する。これらの課題解決の局面に応じて、様々な要素技術、手法を使い分けていく。

データ分析技術、数理最適化技術、シミュレーション技術の適用領域の例を図 2 に示す。特に汎用化可能な需要予測、在庫発注補充計画、輸配送計画などはパッケージ化し、コンサルティングにより提供している。

汎用化された安価なシステムを提供だけではなく、顧客が市場で競争優位に立てるような技術、すなわち、事業のコアコンピタンスを強化する技術を提供することは重要である。キヤノン IT ソリューションズ株式会社はソリューションプロバイダーとして、先端の IT 技術とともに OR を問題解決技術のひとつと位置付け、顧客の価値創造に貢献していきたいと考えている。数理技術部は素材産業、組立産業、その他産業に活動領域を広げながら、OR 実践のノウハウを蓄積中である。弊社の活動が OR の普及、発展に貢献できれば幸いである。

（R & D センター数理技術部 熊本和浩）

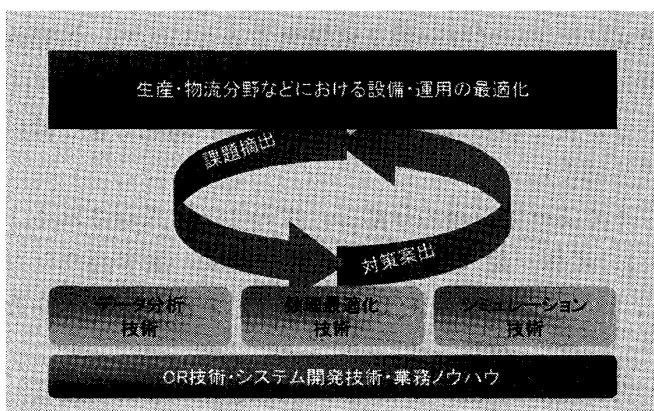


図1 数理技術部の活動コンセプト

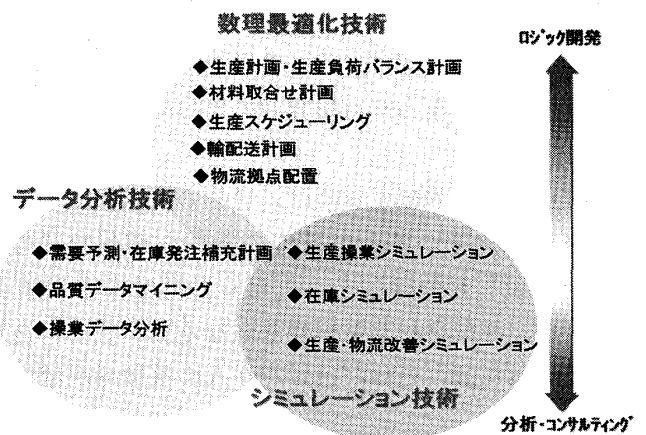


図2 数理技術の適用領域